

# 令和6年度 学校評価報告

草加市立川柳中学校

(令和7年2月6日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
<b>【賢く】</b>	・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、未来を力強く切り拓く生徒 ・自分の思いや考えを伝えられ、良識ある判断ができる生徒
<b>【優しく】</b>	・自他一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、正しい行動のとれる生徒 ・誰とでも協力して活動し、喜びを分かち合える生徒
<b>【逞しく】</b>	・共に磨き合い、課題や目標に挑戦し、あきらめない生徒 ・健康の保持増進と体力の向上に努め、安全な生活を心がける生徒
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
・「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善と学習習慣の確立による学力の向上 ・生徒を認め、鍛え、育む中での豊かな心と逞しい体の育成 ・生徒の自立を促す学年・学級経営の充実・学校力を高める校内研修の充実 ・潤いのある学校環境の整備と美化の推進・豊かな人間関係の育成 ・保健・給食指導の充実及び体力の向上・進路指導・キャリア教育の充実 ・一人ひとりの自立を引き出す特別支援教育の推進・読書活動の充実 ・学校防災体制の確立と安心・安全な学校づくり	<b>成果</b> ○県学調質問紙の「先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか。」約5%の上昇(昨年度比) <b>課題</b> ○教職員の数は減っていくが、必須校務分掌の数は減らない。適所への適材配置を行おうとすると、どうしても偏りが生じてしまう。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	●教員の数が減っている。教員の働き方改革と教育の質の向上の両立が困難である。 ●校務分掌の見直しがなかなかできない。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○各教科で授業研究会へ参加することが出来た。授業改善につながった。 ○引き続き、全校で自己肯定感・自己有用感を育む授業づくりの研究に取り組んだ。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○安全指導・下校指導は適切に行われ、事故防止に努めた。生徒の健康観察と疾病等の治療への対応も適切に行われた。 ○保護者学校評価「学校は生徒の健康促進に努力や工夫をしていますか」はA評価が86%であった。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○施設内の破損個所への対応は迅速に行われた。学校開放における外部団体との使用施設箇所調整も滞りなく行われた。 ○保護者学校評価「学校は安心して学べる場所となっていますか。」はA評価が89%であった。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	●保護者学校評価「学校は教育活動を保護者や地域に積極的に公開していますか。」のA評価は78%であった。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○作品交流や小中交流音楽会、研究委嘱発表会等を通して、学びの系統性を再確認し合うことができた。 ●授業公開日を設定し、異校種間で連携を行なおうとしたが、難しかった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標は生徒、保護者に理解されている。指導計画や学級・学年経営に生かすことができた。</li> <li>●保護者学校評価「目指す生徒に育っていますか。」のA評価は①賢くは71%、②優しくは94%、③逞しくは86%であった。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度に引き続き、振り返り学習の研究を全教員で行い、指導力の向上が図られた。</li> <li>●生徒学校評価「家庭学習をよくしている」はA評価が70%であった。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いのちの授業（3年）といのちの学習（全学年）を行い、自他を大切にする心情や態度の育成を図ることができた。</li> <li>○生徒学校評価「自他の生命を尊重し、自然を愛護するよう心がけている」はA評価が93%であった。</li> </ul>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間指導計画に基づいた指導、支援が行えた。特に委員会活動では、生徒主体を心がけた指導・支援が行えた。</li> <li>○生徒学校評価「係や委員会活動に積極的に取り組んでいる」はA評価が94%であった。</li> </ul>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体計画・年間計画に基づいた指導・支援を行うことができた。</li> <li>○授業数の確保に努めることができた。</li> <li>○組織的に指導を行うことができた。</li> </ul>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、生徒理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導部会を中心に、共通理解・共通行動で組織的な指導が行えた。</li> <li>○保護者学校評価「生徒はルールや約束を守って生活していますか」はA評価が92%であった。</li> <li>●嫌な思いをする生徒の根絶には至らなかった。</li> <li>●不登校生徒の根絶には至らなかった。</li> </ul>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なキャリア教育</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>進路情報の収集・活用</li> <li>職場体験活動</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導計画は具体的なものとなっているので、生徒に目的意識を持たせた指導が行えた。</li> <li>○高等学校と連携し、上級学校について講演していただく機会が設定できた。</li> </ul>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育の正しい理解と認識が深められた。</li> <li>○行事等を通して、通常学級と特別支援学級間の交流が行えた。</li> </ul>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書、昼の図書室開放等、書物に触れる機会を増やすことができた。学校司書のアイデアである“教員のおすすめの一冊”を気にしてくれる生徒も増えた。</li> </ul>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通信環境が整備されて、ICT機器の活用が増えている。</li> <li>○集会や会議など必要に応じて活用が出来る。</li> </ul>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒学校評価「自他を尊重し、思いやりと感謝の心をもって行動している」のA評価は97%であった。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	若手教員が多い、活力のある元気な学校	・ミドルリーダーの育成 ・OJT研修等の活用 ・ボトムアップ手法の活用 ・働き方改革の推進 ・生徒との信頼関係	A	○生徒学校評価「授業は、分かりやすく楽しい」のA評価は86%、「先生は悩み事の相談にのってくれる」は95%、「友人関係は良好である」は95%であった。
	自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり	・わかる・できる・たのしいと実感できる授業 ・部活動指導の充実 ・学力調査の結果と分析	A	○生徒学校評価「学校生活が楽しい」のA評価は88%、「部活動に積極的に取り組んでいる」は94%、「何事にも意欲をもち、最後までやりとおそうとしている」は91%であった。 ○学力調査では、学力の伸びが見られる学年・教科が多数であった。部活動の成果も芳しく、表彰をいただける結果が多数であった。

## 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

本校の生徒は、明るく元気で活力のある生徒が多い。授業や部活動を頑張っている生徒の姿が良く見られる。本年度の全国・埼玉県・草加市の学力・学習調査結果では、学力を伸ばした生徒の割合が各平均よりも高い学年や教科が多数あった。部活動でも運動部を中心に県南大会や県大会へ出場、関東大会への出場を決めた部活動もあった。本校の学校行事は、観る人を熱くしてくれる体育祭と感動させてくれる合唱祭があり、その完成度は中学校レベルを凌駕するほどである。PTA活動や交通指導など、保護者や地域の方々からもご協力をいただける恵まれた学校である。学校関係者評価でもD評価はない。今後も驕ることなく邁進していきたい。

## 6 次年度の改善策

- ① 不登校生徒を年度当初数から増やさない。教育相談部会を充実させ、生徒理解を進めながら、学校や社会とつながる支援を行う。生徒一人ひとりが活躍できる場を設け、ICT機器を効果的に活用できるよう、教育委員会とも連携していく。
- ② 学力の向上のために教員の授業力を向上させる。相互授業参観で授業を見せ合う機会をつくり、教員が主体的に指導力向上に取り組める環境をつくる。生徒がもっと知りたい、勉強ができるようになりたいという思いが前面に出せるような授業改善をしていく。
- ③ 応援される学校にするために、学校の取組や活動を積極的に発信し、家庭・地域との連携を深める。学校公開やオンライン中継など教職員の負担軽減も図りながら実施できるものを検討し実施する。
- ④ 働き方改革の取組をさらに進める。業務削減や業務改善を行い、教職員がやりがいをもって教育活動に取り組めるようにする。部活動や校務分掌は、学級数減による教職員数の変化にあわせて適正化を行う。

未来を担う子どもたちのために、保護者や地域の方々と一緒に、前向きに検討し取り組んでいく。